

特別支援教室だより

令和5年 9月 吉日
巡回拠点大杉東小学校
特別支援教室通信
令和5年度 No.5

2学期の学校生活、そして「スタディルーム」での学習が始まりました。元気な子供たちの顔を見ることができて安心しました。2学期もよろしく願いいたします。

今年度の「特別支援教室だより」では、児童の困りに対して、「その困りの原因は?」「何がしてあげられるの?」といった視点で、巡回指導教員が考えた内容を掲載しています。

【 今回のテーマ 】



休み明け、登校をしたがらない子

【 こんなことが考えられます 】

子供たちが登校をしづつてしまうのには、いくつかの原因が考えられます。例えば、

- 長く休みすぎて登校が面倒くさくなる。
- 夏休みの宿題が終わっていない、または自分の納得のいく出来栄ではない。
- ネット、ゲーム依存に陥り生活リズムが乱れてしまった。
- 理由は明確ではないけれど不安を感じている。

ここに挙げたこと以外にも、子供たちそれぞれに理由があり、登校することに不安を感じる場合があります。ただ、じっくりと話を聞いたり、励ましたりすることで登校できたり、一度登校してしまえば学校生活を楽しめたりすることも多くあります。

【 支援できることはなんでしょう 】

一番大切なこと・・・登校したくない理由を直接聞く。その際、問い詰めるようには聞かない。

「学校は行くべきなのに」「ただの甘えでは?」「登校してもらわないと困る」といった焦りが先行して登校しない理由を責めるように聞いてしまいがちですが、そういった気持ちは子どもに見透かされてしまうものです。「～べき」で語ったり、他の子と比較したりせずに、まずはシンプルに「登校したくない理由」のみを聞いてみましょう。

生活リズムが乱れてしまっている場合は、それを正していくことが第一です。低学年向きかもしれませんが、「早起きポイントカード」を作り、登校に間に合うよう起きることができたら1つポイントをつけ、いくつか貯まったらご褒美をあげることで徐々に慣らしていくという方法もあります。

理由は明確ではないけれど不安を感じている子は、環境への変化に適應するのに時間がかかってしまうことが多いです。体が長期間のお休みに慣れてしまったところ、そこから急に学校と言われても気持ちがついていきません。ですから、初めから週5日の登校を目指すのではなく、ある程度休みながらも徐々に適應できるようにするとよいです。また、登校出来なかったことではなく、少しでも登校出来たことを話題にして褒めるなど、前向きな声かけも大切です。

本校には5名の巡回指導教員がいます。「特別支援教室」について、ご質問がございましたらご連絡ください。

また、本校のホームページに「特別支援教室だより」を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

ホームページのQRコードはこちら 

